

人間（人類）は、なぜ老齡期が長いのか？

生物学的には、多くの生物は子孫を残し、子育てが終わると親はその生命の終焉を迎えます。人間と云う名の生物だけが、なぜ他の生物と比較し子育てが終わった後も長いのか？何か人間という名の生物独自の意味があるはず。そこが解れば、老人としての社会（人類）における役割も見えて来るであろうし、いわゆる老人施設等のあり方や我々（社会）が老人とどう向き合い、どう共生するかも見えてくるのではないかと思います。

人間（人類）は他の生物と異なり言葉を進化の中で獲得してきた。言葉は思考の手段でもあり、その産物として知識と智恵を生み出した。子孫を残し、育てることは他の生物と同様にDNAの成せる業ともいえなくもないが、知識と智恵はDNAでは次世代に伝わらない。故に、人間（人類）は、他の生物と異なり、子育てが終わってからも知識と智恵を伝える時間的余裕を必要とし、いわゆる老齡期が長い。

言い換えれば老齡期の人間の努めは、次世代に現在の世代が前世代から受け継ぎ、また獲得してきた知識と智恵を、次世代が更なる生物学的に人類という名の永遠の生命の継承のために役立つように伝える義務があると云うことになる。また、現在の世代の我々は、それらを受け継ぐ姿勢で老齡期の方々と接する義務（畏敬の念）があり、より豊かな知識と智恵を次世代に伝えるための努めがある。

特に、知識の伝承は現代文明の限りない発達でその手段を多く手に入れたが、その有り余る知識をどう人類の継承のために利用するかという智恵の伝承は、人と人が係わり合うことによってのみ、伝わることを意識しなくてはならない。結論として、肉体的な介護だけを重視する現在の老人問題の取り組みは、片手落ちと云わざるを得ない。また、老人を厄介者のように見る現在の世代は、次世代へ何を伝え、人類の未来をどう予想しようとしているのであろうか。

故に、老人問題に象徴される現代社会の取り組みの優先課題は、もう云わずもかな、である。

（独り言：こうして時々発信している私自身は、もう老齡期かな？

「与えられる知識は応用が利かない。求める知識は智恵となる。」）

（2001年12月25日 記）